広域で「脳卒中地域連携パス」

北多摩の医療機関 行政、ケアマネと連携

東京都武蔵野市、三鷹市を中心に脳卒中急性期医療を担う病院が集まって組織している「北多摩南部脳卒中ネットワーク研究会」がこのほど、急性期の治療を終えた患者がスムーズに在宅へと移行できるようにすることを目的とした「地域連携パス」の共通様式を作成、運用を開始した。パスを作るにあたって行政の福祉担当職員やケアマネジャーなどの関係者が参加し、在宅生活を送る上で必要な情報が確実に伝わるようにしたのがミソだ。医療機関だけでは完結することのない脳卒中後の医療・ケアが、途切れることなく提供できるようにする新しい仕組みとして注目される。

パスの正式名称は「地域連携診療計画書」だ。

脳卒中で倒れた場合、多くは後遺症が残る。地域連携パスは各地で取り組まれるようになっているが、地域の中核病院、医師会、行政が市域を越えて取り組むケースは全国的にも珍しいという。同研究会は2001年の設立直後から、地域完結型脳卒中診療体制の構築を目指してパスの開発や試行を行っていたが、急性期での治療を経ず、障害を抱えながら生活を維持していくための介護につなぐ際の情報提供のあり方に課題を感じていたという。

そこで、昨年7月に行政の福祉部門担当者や在宅のケアマネジャーなどが在宅・医師会・行政分科会に参加し、在宅介護を支える立場から必要となる情報について話し合いを重ねた。

新しい地域連携パスは全4枚の様式で構成されている。まず、最初に治療を受ける急性期病院が本人や家族に今後の症状の回復の見通しと、それに伴って受けられる医療や介護の選択肢を示す。次に、リハビリ機関に移る際に提供されるパス（その2）、そして、在宅療養や介護施設へ移行する場合に使用するパス（その3）などがある。

中でも従来のパスと大きく異なるのはこの「3」だ。治療の経過や疾病の現状を示す項目は最小限にとどめられ、その代わり「今後の合併症の注意点」や「生活上のリスク」、「在宅でリハビリに取り組む際に継続できること・回避すべきこと」などといった今後の介護生活にとって必要な情報を細かく書き込めるようにしている。本人にとって必要な介護サービスは何か、家族に負担がかかり過ぎないようにするための意見も、病院関係者、ケアマネジャーなどとともに本人や家族が話し合った上で記入するようになっている。在宅での現場の声が大きく反映された点だ。民間の医療・介護事業者の連携に、行政が積極的にかかわったのも珍しいことといえる。

現在、パスの運用に参加しているのは同医療圏の急性期病院5施設、回復期病棟で250床、在宅療養への移行の要とされている回復期病棟は増加しているという。

同研究会に参加する角田徹三鷹市医師会会長は、「この地域連携パスを病院と介護福祉関係者の〝共通言語〟としたい。患者本人に今後の暮らしに対する安心感を持ってもらうことがねらい」と話す。将来的には心筋梗塞、糖尿病、がんなど、切れ目のない医療の提供を拡大していくことを目指しているという。

作文とフォトコンテストを同時募集

全老施協

全国老人福祉施設協議会（中村博彦会長）は、介護現場のイメージアップを図ることを目的に、介護サービスの利用者とその関係者を対象とした「私の感動作文コンテスト」と「笑顔をありがとう フォトコンテスト」を実施する。

作文コンテストでは〝私の感動〟を、フォトコンテストでは〝笑顔をありがとう〟をテーマに作品を募集。作文は1千字程度。

応募締め切りは9月30日。最優秀賞30万円、優秀賞10万円。

詳細は、コンテスト事務局03・3486・8887へ。

大阪で来月全国大会

バイオフィリアリハビリテーション学会

バイオフィリアリハビリテーション学会（木村哲彦会長＝国際医療福祉大学大学院教授）は8月23日、大阪市で第12回全国大会を開催する。

大会テーマは「脳可塑性とリハビリテーション医学」。木村会長が「医学と工学の融合が介護社会を救う」と題して講演を行うほか、診療報酬改定で加算が設けられた褥瘡対策の効果について岡山リハビリテーション病院などが研究報告を行う。また、認知症対策とリハビリテーションの可能性をテーマに、内閣府政策統括官付参事官大島一博氏が講演する。

参加費5千円。問い合わせは大会事務局ファクス072・869・0068、またはE-mail：satoh@wakakoukai.or.jpへ。

若年認知症支援の手引きを作成

研究・研修3センター

東京・仙台・大府にある認知症介護研究・研修センターはこのほど、共同で「若年認知症支援ハンドブック」を作成した。

疾患の医学的理解だけでなく、職場や家族で直面するさまざまな困難とそれに伴う本人・家族の心理的側面への理解と配慮についても詳しく解説。

本人のアイデンティティの喪失を理解し、「役割を待ちたい」「自分で決めたい」という欲求を尊重した社会参加活動や仲間づくりの場を提供することなどを提案している。医療機関へのかかり方、雇用保険受給期間の延長の手続きなどの情報も。

ホームページからダウンロード可（http://www.donek.gr.jp/）。問い合わせは大府センター0562・44・5550へ。

全社員を認知症サポーターに

山万

18日に開催した養成講座には約40人が参加した

1971年から千葉県のユーカリが丘ニュータウンの開発に着手した不動産会社の山万は、住宅を建設して一斉に売り出すといった手法ではなく、毎年計画的に販売戸数を設定して供給し、どの世代にも快適な暮らしを提供するための施設を整備している。世代バランスを考えた街づくりで人口は約1万5千人まで増えたが、高齢化問題とは無縁だ。今月からはグループ全社員を対象に認知症サポーター養成講座も始めた。職員が地域の一員として根付くことが、誰もが住みやすい街づくりへの実現に結びつくと考えている。

どの世代も住みやすい街づくりの実現に挑戦

林専務

ユーカリが丘ニュータウンは東京都心から電車で1時間ほど、千葉県佐倉市にある。住宅を整備し、街を作って売ったらおしまい、というのが一般的な土地開発だが、同社は開発をしたこの地に根付き、住宅や施設などのハード面を完成させるだけではなく、地域のニーズやその時代に合わせた環境づくり、街の運営といったソフト面までサポートしているのが特徴だ。

ハード面では、医療、福祉、保険、教育施設などの施設群からなる「ユーカリ福祉の街」を整備。2007年に開設した認知症グループホーム「ユーカリ・ビレッジ都びあ」は、千葉県初の学童保育併設型だ。子どもたちと日常的に触れ合うことで認知症の症状の進行が緩やかになる効果も見えてきており、子どもたち自身が認知症患者と接するときのルールブック」も作成した。情操教育にも役立っているという。そのほか、特養ホームや老健施設、障害者施設など介護・福祉施設が点在しているが、いずれの施設も住宅街のすぐそば、障害者が地域住民にとって特別な存在にならないように、との考えからだ。

「近年は子育て支援にも力を入れて30代の世帯も増えてきています。人口バランスを考え住宅を長期的・計画的に供給することで、偏った世代だけが暮らすのではなく、どの世代も生きいきと暮らせる活気ある街づくりができつつあると思っています」

持続的な街づくりを実現するためには、会社が地域に根付き、街の成長を見届けながら管理することが重要なのだと林新一郎専務は話す。実際、社員の多くがこの街に暮らしているという。

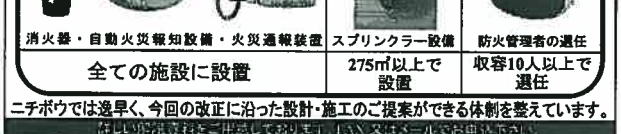
今月からグループ全社員およそ1200人を対象に認知症サポーターの養成講座もスタートさせた。18日に行われた講座には、当初の予定人数をはるかに上回る社員が参加した。今後数回の講座でグループ全社員が受講することを目指しているという。

「将来的には働く意欲のある高齢者や結婚・子育てで退職した女性に向けた職場の提供も考えていきたい」と林専務。地元で雇用を生みだし、街全体の経済を活性化させて「人の〝地産地消〟」を実現するのが目標だ。

社会福祉施設用スプリンクラー設備

275m²以上の「社会福祉施設等」に、スプリンクラー設備の設置が必要となりました。

自治体によっては、スプリンクラー設備の設置に補助金制度があります。詳しくは、弊社までお問合せ下さい。



消火器・自動火災報知設備・火災通報装置	スプリンクラー設備	防火管理者の選任
全ての施設に設置	275m²以上で設置	収容10人以上で選任

ニチボウでは逸早く、今回の改正に沿った設計・施工のご提案ができる体制を整えています。

詳しい資料をご用意しております。FAX又はメールでお申込下さい。

もうひとつの防災110番 株式会社ニチボウ

口本社 141-0022 東京都品川区東五反田1-9-5 TEL 03-3444-6227 FAX 03-3444-3116 担当：営業技術室 松本 洋輔

URL http://www.nitibou.co.jp e-mail info@nitibou.co.jp 緊急センター直通TEL 03-3447-4949

テレビ講座 インターネット講座 SKY PerfecTV!

ケアマネジャー受験講座2008

10月19日(日)の試験に向けて、おすすめ!!

医療福祉チャンネルならTV・インターネットで「見て聞いて」学べます。

講師陣は、介護保険制度構築に関わった人、ケアマネジメントの第一線の人。

さらに、本チャンネル取材陣による介護保険制度等の動向の徹底分析と過去10年間の過去問題徹底分析から、出題傾向をズバリ予測。

※番組は変更になる場合があります。

テレビ講座 http://www.tryoufukushi.com/ テレビ講座視聴料：月額2,100円（各50分・全33回）

インターネット講座 http://www.ch774.com/ インターネット講座受講料：31,500円（各50分・全32回）

SKY PerfecTV! 医療福祉チャンネル774